

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079500122		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム 亀ハウス		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡糸田町3122番地3 (電話)0947-26-3434		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 7 人 非常勤 4 人	常勤換算 8.9

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>		築6年
建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり		860円

(4) 利用者の概要(平成20年9月30日 現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町舎跡地であるお祭り広場正面の、住宅地の一角に二階建て2ユニットの亀ハウスがあり、玄関をはいると利用者の明るい笑い声が聞こえてくる。エレベーターで2階が上がると、食堂では利用者職員が、昼食の下拵えを楽しそうにしている。利用者の健康管理とやすらぎのある生活を第一に考えて、開業医と居宅療養管理指導契約を結び、往診や訪問看護を定期的に受けている。ホームの立地環境が地域住民と自然に触れ合えるので、地域の夏祭り、敬老会、山笠などに気軽に参加ができ、ホーム主催の納涼祭に案内したり、小学生の体験学習などを通じて年々交流が活発になっている。また、毎月家族参加の外出食事はショッピングを兼ねて行われて、利用者の楽しみの一つである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は8件あったが、施設長、管理者、職員全員の頑張りで8件全部改善に向けて、取り組んでいる。「評価の意義の理解と活用」「市町村との連携」「同業者との交流を通じたサービスの質の向上」「災害を想定した訓練や非常食や飲料水の備蓄」「運営に関する家族からの意見と反映」などが引き続き今後の課題として、努力されることを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員会議で意見を出し合い、管理者がまとめて作成している。職員全員が評価の意義を理解しているのではないので、今後は職員ひとり一人に分担して、自己評価を作成してもらい、介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は利用者代表、家族、地域住民、行政職員、ホーム職員で構成し、2ヶ月毎に開催している。ホームの2ヶ月間の様子や行事、新しい取り組みなどを報告し、参加者からは要望や助言などが出て、活発な意見交換会になっている。また、ホームから行事の参加、ボランティアのお願いなどを要請し、参加者全員が協力的である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見、要望は家族来訪時にゆっくりと聴くようにし、出された要望は出来るだけ反映できるようにしている。家族から介護サービスに関する意見は出るが、ホームの運営に関するものはなかなか出てこない。今後は玄関などに意見箱を設置したり、家族会を立ち上げて気軽に運営に関する要望が言えるように工夫していくことが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの場所が、通勤や通学路などの生活道路として多くの人々が利用しているため、自然に話す機会があり、利用者、職員と地域の方との交流が始まっている。双方の行事に案内したりされたりの関係であり、お互いの信頼関係も出来てきて、地域の一員として活動ができています。今後はホームの認知症はもとより、介護全般に関する経験と知識をもって、地域に社会貢献できる体制の構築が望まれる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員は地域の一員として、地域の中で穏やかに、安心して暮らせるように、職員はホーム独自の理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で理念を唱和し、実践できるように理念に基づいた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの正面に町の祭り広場があり、町の行事がいつも開催され、利用者と職員が参加している。また、ホーム主催の夕涼みや花火などで地域の方を招待したり、小学生の訪問など、地域との交流も活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が会議で職員の意見を集約して、作成しているが、評価の意義と活用は不十分である。		管理者は自己評価表を分けて職員に配布し、職員一人ひとりが少しでも作成することで評価の意義を理解し、活用できることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、ホームの2ヶ月間の報告や行事案内、介護サービスの説明などを行っている。参加者からは情報や質問などがでて、活発な意見交換が出来る。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の敬老会、文化祭に積極的に参加している。		町と協働で介護サービスや認知症などの相談事業やホームの6年間におけるグループホーム職員の、技術の蓄積を基に勉強会などを開催するなどの工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者や家族に対しては入居時に施設長から説明をしている。今後は職員にも制度を理解してもらい、説明できることを目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に職員が、毎月発行のホームだよりや記念写真等と一緒に詳しく説明している。来訪出来ない家族には電話や手紙の中にホーム便りを入れて郵送したりして、報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、利用者の毎日の生活に関する意見や要望はあるがホームの運営に関する意見はない。		家族会を立ち上げて、管理者や職員が家族と常に接することでコミュニケーションをとり、ホームにとって大事な運営に関する意見や協力が出てくることが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが利用者のダメージを最小限に抑えるように、管理者は、職員全員が利用者との馴染みの関係ができるように、勤務表を配慮し担当や役割などに工夫している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は年齢、性別の制限はしていない。新しいスタッフが、一人ひとりの経験や能力を十分發揮できるように取り組んでいる。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	毎月の勉強会や毎週行われるスタッフ会議の中で人権に関することを取り上げている。毎朝の朝礼でも施設長が職員に話している。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や法人本部で行われる勉強会に、職員が交代で参加し、技術や知識を身につけるようにしている。また、職員一人ひとりが生き生きと働けるように、休憩室、休憩時間などに配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町にグループホームが4ヶ所あるが連携や、連絡協議会等の設置がない。		グループホーム連絡協議会を結成し、事業所、職員の情報交換や、質の向上を図るための勉強会、悩み事相談など相互訪問、相互評価等で地域全体の質を高めていくことを期待する。
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者と家族の見学や体験入所などを通じて、職員と利用者が少しずつ馴染みの関係や信頼を築き納得して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が一緒に過ごし、支え合う関係は、孤独になりがちな利用者にも明るさや喜びと悲しみなどを共有し、日々の暮らしに活かされている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりのその日の状態を把握し、今日は何をして何を食べたいのか等をゆっくり聞き出している。意向の聞き取りが困難な利用者は過去の履歴や特技、嗜好品等を考慮して介助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設長、管理者、職員は介護計画作成のために、毎日朝礼、終礼時に申し送りをを行い、毎週のスタッフ会議で提案し、毎月の会議で家族の要望も取り入れ作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しているが、利用者の状態変化に応じて臨機応変に対応し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の特別養護老人ホームやデイサービスと連携し、亀ハウス独自の取り組みを活かした多機能性のある支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。また、開業医と居宅療養管理指導の契約を結び、2週間ごとの往診と訪問看護を1週間ごとに実施し、利用者の健康維持と状態急変に備えている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族、かかりつけ医と常に話し合い、重度化に向けた介護の方針を共有している。また、利用者の状態や今後についてはかかりつけ医から説明し、家族に納得してもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを守り、優しく見守り、さりげない誘導で周りに気づかれない工夫をしている。利用者一人ひとりの資料は鍵のかかるロッカーで保管している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日のスケジュールはあるが、職員は利用者のその日の状態、希望等を把握し、その人らしい過ごし方が出来るように努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のときは、利用者の中に職員が座り楽しい食事風景である。検食の一人を除いて弁当持参だが、おかずの交換等で賑やかな会話がはずんでいる。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3～4回で午後からの入浴である。入浴拒否の利用者には清拭や足湯等に対応し、本人が入る気になるのを待つようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体能力や希望を考慮し、役割を決め健康状態や天候などを考えて、毎日の暮らしがマンネリ化しないように工夫している。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、利用者と一緒に祭り広場の横の公園に散歩に行ったり、ドライブや外食などで、利用者のその日の心身の状態に合わせて外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員の勤務体制や入浴時などにやむをえず一時的に利用者の安全を考慮して施錠をする時もある。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員全員が消火器の設置場所と使用方法を理解しているが、消防署と連携した消防避難訓練などは実施できていない。		消防避難訓練は地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時の食料、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分の摂取は職員が把握し、毎日の習慣や心身の状態に応じて、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間、廊下などに季節感が漂うような物を飾り、日々がマンネリ化しないようにしている。また、音や光、匂いには職員が常に気を配り、利用者が安心して、穏やかに暮らせるように配慮している。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して、出来るだけ自宅で生活しているような雰囲気を出すために、利用者が使っている馴染みの物や大切な物を持ち込み、居心地よく暮らせるように、配慮している。		